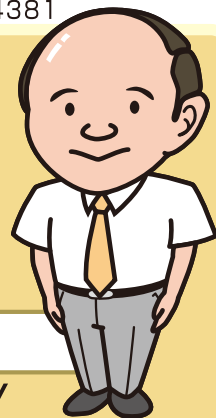




西野まさひと

活動報告 NO.18



ハッキリ言います! 市政にひとこと!

[ホームページもみてね!] <http://www.nishino1.com/>

■ 西野まさひと友の会では平成21年日野市9月議会における主な内容と西野議員の6月議会一般質問についてご報告致します!

平成20年度の一般会計決算に対して市議会自民クラブを代表して意見を述べる機会を頂きました。当年度は百年に一度と言われた世界的な経済危機を受け、輸出を主とする製造業の業績悪化が市財政に与える影響は深刻なものとなりました。しかしながら、(仮称)ふれあいホールの建設を一時休止するなど、柔軟な対応で健全な財政運営を維持し、そのなかで、市民生活重視の観点から高齢者健康事業・子育て支援事業・格差是正・地球温暖化防止事業等多くの事業成果を上げました。これらについては3・4頁にて主な内容を抜粋してご報告します。

経常収支比率
90.6%

財政の健全さを示す指標の一つである経常収支比率では、90.6%と前年度から3.4ポイント好転しています。

平成20年度の一般会計決算に対して市議会自民クラブを代表して意見を述べる機会を頂きました。当年度は百年に一度と言われた世界的な経済危機を受け、輸出を主とする製造業の業績悪化が市財政に与える影響は深刻なものとなりました。しかしながら、(仮称)ふれあいホールの建設を一時休止するなど、柔軟な対応で健全な財政運営を維持し、そのなかで、市民生活重視の観点から高齢者健康事業・子育て支援事業・格差是正・地球温暖化防止事業等多くの事業成果を上げました。これらについては3・4頁にて主な内容を抜粋してご報告します。

平成20年度一般会計決算

予算編成のポイント

- 持続可能な財政運営となる行財政改革の推進
- 市民サービスは充実、公共施設等の整備事業は延伸
- 新たな医療制度や財政指標への対応

一般会計 歳入 **540億2714万円** 一般会計 歳出 **522億633万円**

携帯サイトはこちらから!

日野市議会ふたたび定数削減!26から24議席に!

日野市議会議員定数の歴史

- | | |
|--------|--|
| H10.12 | 議員定数削減
検討特別委員会を設置 |
| H11.12 | 現行30名から26名を提案、
可決成立
(自民ク5名・公明4名・市民ク4名減提案)
(共産党ほか無所属は反対) |
| H21. 9 | 26名から24名へ定数削減 |



**自民ク・公明・市民ク賛成、
共産・無会派反対**

日野市議会はかつて定数30名でしたが平成11年、4名削減し26名としました。当時、馬場市政下で果敢な行財政改革を断行する中、市議会でも率先して経費を削減し改革すべきと、自民クラブ・公明党・市民クラブの賛同を得て成立しました。そして、この9月議会でもふたたび市議会の定数を2名削減する議案が上程されました。

近年の不況のなか民間企業は厳しい企業努力を重ねて乗り越えてきました。市財政が緊急事態を迎えている今、市議会も自らが厳しい課題を課して臨むべきだと考えます。今議会では、自民クラブ・公明党・市民クラブの賛成により可決成立しました。これにより来年2月に行われる市議選は定員24名で行われることとなります。地方分権が加速推進されるなか、これから益々議員一人ひとりの活動が重要になりますので、さらなる精進を重ね市政に取り組んでまいります。

日野市議会議員 西野正人

**痛みを伴う改革を
まずは議会から実現!**

2減

馬場市政

V

だれでもが健やかでいられるまちづくり

●市立病院の経営健全化

慶応大学医局からの派遣により小児科医を、内科・外科医師等の採用により医師の欠員を解消し、常勤医師51名体制を確保しました。また、救急科を新設し災害医療を充実させました。地域の開業医のご協力により紹介率も平成20年度は30.7%（前年度+4.3%）となりました。

●健康診査事業

市民の健康保持のため各種がん検診を行いました。

●胃がん検診	2,275人	●子宮がん検診	3,652人
●肺がん検診	691人	●乳がん検診	4,038人
●大腸がん検診	23,096人	●咽頭がん検診	662人
●前立腺がん検診	971人	(受診者数)	

前年度比
+643名!

馬場市政

VI

住みやすいまちづくり

●百草谷戸緑地保全地区計画区画道路工事

百草谷戸地区に370mの街築を行いました。併せて緑化ブロック擁壁、排水・舗装工事、街路灯設置工事を行いました。



馬場市政

VII

気軽に出かけられるまちづくり

●道路いこいの場整備(日野駅東広場に上屋設置)

日野駅東広場に上屋を設置し、送迎待ちの日よけ・農作物の直売やイベントの開催等に活用しました。



馬場市政

VIII

自然と人が共生するまちづくり

●日野宿再生通り再生事業(日野用水上堰の開渠)

大昌寺から日野第一小の間の暗渠となっていた日野用水上堰を開渠化し、水辺の魅力を活かし、なおかつ歴史的な街並みづくりを行いました。



●エコひいきな街づくりモデル街区推進事業

栄町の市営住宅跡地に、ソーラーシステムの無償貸与や生ごみ堆肥化システムを導入した、モデル街区を設定し販売しました。

CO₂

馬場市政

IX

安全で安心なまちづくり

●市内安全パトロール

警察官OB職員が青パト車で、委託事業者が自転車でパトロールを行い、地域では防犯ボランティアを拡大募集(前年度比+300人)し防犯活動を行った。その結果、238日のパトロールで前年度比338件の刑法犯の発生件数を抑制することができました。

刑法犯
338件減!

●宿泊防災訓練事業

首都直下地震に備え、すでに耐震補強工事が終了した市内小中学校で、市職員と市民による宿泊訓練と各種防災訓練を行いました。今年度は市内8ヶ所の小学校で合計523名が参加して行われました。



馬場市政

X

個性と魅力と活気あるまちづくり

●学校給食用地元野菜等供給コーディネート事業

農業者と学校栄養士の双方の要望を聞きながら、地元野菜の学校給食への円滑な供給を図るコーディネート事業により、広域的な野菜の発注や価格の統一が可能になり前年度比3.1%増となる18.8%の供給率を確保することができるようになりました。

●市内共通商品券事業

日野市商工会・日野市商店連合会・日野市商業協同組合の三団体による市内共通商品券「新・カワセミ商品券」を販売しました。プレミアム分(7月は10%、12月は15%)と事務費を市が補助しました。7月の実施では、中小店舗における利用率が6割を占めるなど中小店舗の利用促進に貢献しました。

中小店舗
利用率(7月)
6割

平成20年度の主な事業

まちづくりの10の柱

平成20年度は馬場市政の総仕上げの成果がいよいよ形になって現れてきました。「日野用水上堰の開渠」をはじめ、「日野一中の新校舎」も日野宿再生の新たなランドマークとなる景観を備えてリニューアルされました。また、「まちかど写真館」などソフト面でも市民が積極的に参加し、魅力的な日野の街づくりが前進しました。

魅力的な
日野の街づくり
大きく前進

馬場市政

I

参画と協働のまちづくり

●市長とふれあいトーク

市内17会場で「みどりの大地 青い地球をいつまでも」「ふだん着でCO₂をへらそう」をテーマに市民に地球温暖化防止への協力を呼びかけるとともに、市民からの要望を聞き市政運営へ反映をはかりました。



●生活安定化総合対策事業

東京都の委託事業として平成20年度から3ヶ年事業として、低所得者の生活相談、就労支援や学習塾費用・大学受験費用の貸付等を行いました。

- 就職チャレンジ支援事業
相談件数145件 申請件数32件
- 生活サポート特別貸付事業
相談件数34件 申請件数4件
- チャレンジ支援貸付事業(学習塾受講料)
相談件数72件 申請件数16件
- チャレンジ支援貸付事業(大学受験料)
相談件数34件 申請件数8件

馬場市政

II

日野人・日野文化を育てるまちづくり

●日野第一中学校の建替

日野第一中学校は新耐震基準で完成!(上写真)広い食堂や多目的室など地域活動の拠点ともなります。

広い!
一中食堂

●日野宿発見隊事業

50年前の写真を収集し当時と同じ場所に展示した「まちかど写真館」はテレビ・新聞でも取り上げられ、観光客等も2万人を越え、まちおこしにつながりました。



馬場市政

III

ふれあいのあるまちづくり

●栄町こよう館の建設

栄町2丁目に基幹型児童館、地区センター、地域の防災施設として消防団詰所器具置場の3つで構成される複合施設を建設しました。



●平山台健康・市民支援センター開設経費

自治会や障害者・障害児の支援団体、平山台文化スポーツクラブ、日野団塊世代広場の活動拠点として平山台健康・市民支援センターを旧平山台小を活用し開設しました。



馬場市政

IV

対等の立場で心のかようまちづくり

●待機児解消の取組み

「京王キッズプラッツ高幡」(定員60名)・「吹上多摩平保育園」(定員30名)・「私立栄光平山台保育園」(定員30名)開設!

旧平山台小に
私立栄光平山台保育園開設!

●事業運営円滑化推進事業

障害者自立支援法の施行に伴い、施設運営の収入激変の緩和を図るため、市内5法人6施設に対して施設運営費を助成いたしました。

すずかけの家(写真)
知的障害者通所更生施設

質問
4-1

経済不況下における諸施策の対応を問う

プレミアム付きカワセミ商品券

カワセミ商品券は市民に浸透！

まずはじめに「プレミアム付きカワセミ商品券」の発行についてです。5月30日の読売新聞において「プレミアム商品券明暗、13市完売、3市売れ残り」の見出しで記事が掲載され、日野市商業3団体が販売した新カワセミ商品券が売れ残っているとの報道に心配をされた市民の方も多数いらしたかと思いますが、事実は6月1日に確認したところ売れ残りは1%、6月3日には完売されました。日野市の「商品券」の取組みは近隣他市と異なり昨年7月、12月の好評を受け、これに続く取組みであり、より多くの市民の方が利用できるように購入価格の上限を10万円から5万円に引き下げるなど工夫を凝らしたものです。背後の状況等を充分に取材されずに端的に報道され、関係各位の尽力・苦勞を思うと残念でなりません。

カワセミ商品券の分析・評価を急げ！

さて、今回のプレミアムは15%で、3000万円もの市税が投入された大きな事業です。この経済効果がいかなるものであったか、冷静に分析・評価を行うべきであると考え提言をいたしました。購入者にアンケート調査等を行い、購入者の所得層から使用用途、使用店等の情報を精査すべきです。今回の施策は、市内中小企業の景気浮揚策と併せ、市民のくらしの助けとすべき施策です。購入者が比較的经济的余裕がある方にかたより、本当に助けが必要な方々が購入に至らなかったとすれば、今後さらなる検討の余地があるのではないのでしょうか。

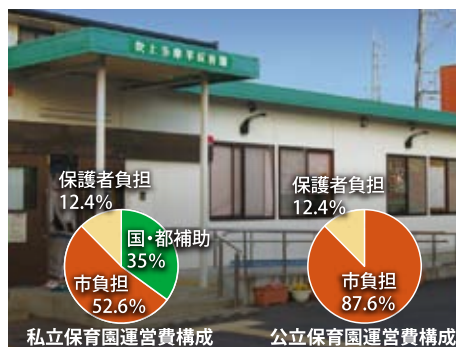


質問
4-1

経済不況下における諸施策の対応を問う

保育園待機時児ゼロの実現を！

民間保育所の力を活用すべき！



次に保育待機児の問題です。日野市の平成21年4月1日現在で136名の待機児がいます。今年度はゼロ才から5才までの乳幼児人口は100名あまり減少したにもかかわらず、不況の影響を受け、夫婦共稼ぎの世帯が増加している。保育園の申請者は41名増加しました。この状況を見ても、不況が市民生活に深刻な影響を及ぼしている現実を認めざるをえません。「待機児ゼロ」は先の市長選挙でも市長のマニフェストにうたわれていた項目でもありますのでしっかりと対応をお願いしました。また、このような事態をうけ、国と都の補助を受けて市の財源負担が5割強で対応することが出来る民間保育所の力をかりて事態を打開すべきとの提言をいたしました。

さらに、現在、日野市においてはひとり親家庭の保育園児は300名弱在籍しており、児童全体の11%を占めます。日野市の保育行政においてひとり親家庭の優遇制度の状況は、日野に永年住み続けている共稼ぎ家庭より入園しやすいことから他市からのひとり親家庭の流入増加を危惧する声も聞かれます。制度のさらなる精査・充実が必要かと思えます。

質問
4-1

経済不況下における諸施策の対応を問う

市内小中学校への就学援助制度

就学援助の周知徹底を！

三番目に日野市が行っている市内小・中学校への就学援助制度について質問を行いました。この制度は、所得等諸条件を満たす小中学生をもつ家庭に対して、通学費や学用品などの費用について負担を軽減するものですが、日野市内での実施状況をたてました。答弁は日野市では平成20年度は児童・生徒数1万3048名に対し2006名が認定され援助を受け、その割合は15.4%のことでした。この数値は多摩地域26市での比較では平均的な数値であるとのことですが、学校毎の内訳をみると市内小中学校では最高25.6%、最低で4.9%、中学校では最高25.6%、最低で11.3%と大変大きな差があります。これだけ多くの方が就学援助を受けているということも不況の反映と驚きを隠せませんが、それ以上に制度運営にかたよりが無いのか、周知が徹底されているのか確認が必要であると思えます。

就学援助制度の利用率

